



留学生活におけるアセアンセンター

明治大学 情報コミュニケーション学部4年

藤田 大樹

私たち交換留学生在タイへ来て3カ月が経ちました。タイでの生活や大学の授業にも慣れ、充実した留学生活を送っています。私が通うシーナカリンウィロート大学はバンコクの中核地にあります。広大なキャンパスの中は芝生のグラウンドを中心として時計台や学部棟が立ち並び、都会の騒々しさをあまり感じることのない落ち着いた環境が整っています。

私は午前中にタイ語の語学学校に通い、午後に大学でタイの学生と英語の講義を受けています。大学での講義は、英語でのディベートやプレゼンテーションの方法を学ぶものから、自分の学部の専門科目まで多岐にわたり、留学生それぞれが自分で選択することができます。中にはタイ語能力の向上のため、タイ語の講義を聴講している者もいます。明治大学で受けていたような専門科目を英語で学ぶというのは、とても新鮮で興味深いものです。休日や講義のない日は、タイの学生や他大学からの日本人留学生と遊びに行くなど、充実した毎日を過ごしています。

私たちの留学生活の中心になっているのが、明治大学アセアンセンターです。このセンターは大学の構内にあり、授業の予習・復習や学生同士の懇談の場として、留学生をはじめタイの学生にも大いに活用されています。教室やゼミ室もあり、現在私たちは週1回先生をお招きしてタイの文字を勉強しています。センターのスタッフもたいへん親切な方で、タイ語の学習から日常生活に至るまで私たちの生活をサポートしてくださっています。このセンターは今年開所したので、幸運なことに私たちがセンターを利用できる最初の留学生となりました。多くの先生や職員の方のご尽力によって開所したセンターにより、充実した留学生活を送ることができ光栄に思います。今後のさらなる活用が楽しみです。

タイへの留学について人に話をすると、必ずなんでタイなの？といわれます。確かにタイや東南アジアへの留学は、英語圏への留学に比べて一般的ではありません。しかし、近年高い経済成長率や投資環境の良さにより、企業の視線は確実に東南アジアにシフトしつつあります。英語を話せる学生が珍しいものでなくなっている今、現地の言語を習得し異文化を受け入れる柔軟な価値観を身につけることは、大きな利点になるといえます。躍動感のある東南アジアとの国際交流の拠点としてアセアンセンターが設置されたことは、まさに時代の潮流を見据えたものであり、明治大学のアジアに対する考えが込められていると感じられます。センターを利用した私たち留学生がアジアで活躍できる人材となれるよう、これからも一層精進する所存です。



アユタヤにて

【鈴木健人ゼミ所属／体育会アーチェリー部】